

## 告 辞

本日、東京農工大学の大学院を修了したみなさんに、東京農工大学の教職員を代表して心よりお祝いを申し上げます。

本日、学位記を授与されました大学院博士前期課程修了生は、工学府三二六名、農学府一七〇名、生物システム応用科学府八〇名、技術経営研究科四四名、合計六二〇名です。また博士後期課程修了生は、工学府四〇名、同論文博士二名、生物システム応用科学府十二名であり、合計五四名ですが、茨城大学と宇都宮大学、および本学で構成しております東京農工大学大学院連合農学研究科の修了式を既に三月一三日に行い、課程博士四十八名、論文博士十三名、合計六十一名の方々に博士の学位を授与しております。したがって、本学の博士後期課程修了者の合計は一一五名となります。以上を合計いたしますと、今年度本学から巣立ち行く大学院修了生及び論文博士の総数は、七三五名となります。本学大学院を修了された皆さん、おめでとうございます。皆様がこれまでの研鑽と努力の結果、修士号あるいは博士号を取得されたことに対し、我々一同、心よりお祝いを申し上げます。

本日の修了者の中には、アジアとヨーロッパの一六カ国から六一名の留学生が含まれております。皆さんは異なる言語、文化、習慣の壁を克服し、学位を取得されました。今日までの努力に対して深く敬意を表します。

修士の学位を取得された皆さん。皆さんの多くが社会人としての生活をスタートされることでしょうか。自ら選んだ世界で大いに活躍しようと希望に燃えていることと思います。修士課程で培った専門知識と応用能力は、農学あるいは工学の分野の技術者として活躍するのに十分な高度なものです。新しいスタートにあたっては、是非高い目標を掲げたいと思います。それに向かって自信を持って進んで下さい。

引き続き大学院後期課程に進学し、より高度な専門知識を身に付け、将来の研究者を夢見て大いに胸を膨らませている方々も多数に上ります。皆さん、今の希望に満ちたその気持ちを忘れないで下さい。これから取組む博士論文は、未開の荒野に分け入り、自ら道を切り開く行為です。荒野に一本の道が切り開かれた様子を想像してみてください。そこには大きな喜びがあるはずです。それは研究者にだけ味わえるものです。その喜びを目指して、明日からのスタートに期待しております。

博士号を取得された皆さん、皆さんは今日、研究者として独り立ちする日を迎えられました。おめでとうございます。これからは自力で独自のフロンティアを切り開いていかれると思います。博士とは「学問または一つの専門分野にひろく通じた人」と定義されます。皆さんが身につけた専門知識はその分野でのスペシャリストというにふさわしい高度なものですし、博士号の取得は、研究者として歩むこれからの長い人生の中でも、一つの区切りであることは間違いありません。しかしこれはゴールではありません。新たなスタートなのです。皆さんは4月から新しい環境での新たな研究生活に向け、大きな目標たて、それに向かって進もうという意欲に燃えていることと思います。是非大望を抱いて進んで下さい。

本日、学位記を授与された皆さんは、大学院の無事の修了に喜びを感じつつ、次の新しい目標を心に秘め、新たなスタートに向けて計画を練りつつあると思います。大胆と思えるほどの目標を持ってチャレンジして下さい。浄土宗の開祖である法然の言葉に、「一丈の堀を超えんと思う人は、一丈五尺を超えんと思ふべきなり」というのがあります。何事も必要最小限の目標では、目的は達せられません。また、目標設定が高いほど、それに到達できるように一層の努力をするようになるし、自分自身の持つ本当の力を発揮できる、という意味の言葉です。たゆまぬ努力こそ大きな力なのです。偉大な先人の言葉、あるいは古い諺の中に、この種の言葉は枚挙に遑がありません。

「艱難汝を玉にす」

という諺があります。これは西洋の、

「Adversity makes men wise.」

という諺に相当するものです。洋の東西を問わず、艱難を自らに課し続ける人のみが、不断の人的成長を遂げられることを意味しております。努力をし続ける状況に自らを置くことができれば、大きく飛躍できます。皆さん、是非大望をいただき、その実現に向け、日々努力をして下さい。それにより、研究者として、技術者として大きな成功をおさめることができるでしょう。

昨年は4人の日本人がノーベル賞を受賞し国内は沸きましたが、それぞれの科学者の努力は生半可ではなかったはずです。例えば、対象性の破れの発見の功績で物理学賞を受賞された益川敏英博士は風呂の中でも熟考に熟考を重ねて閃きを得ております。オワンクラゲの緑色蛍光タンパク質の発見と生命科学への貢献により化学賞を受賞された下村脩博士の場合では、家族総出でオワンクラゲを大量に集めるという地道な努力があっ

たればこそその成功でありました。

皆さん、学位論文をまとめるこれまでの道は決して生易しいものではなかったと思います。研究に行き詰まり、悩みに悩んだこともあったかもしれませんが、しかし皆様はその壁を見事に乗り越えました。素晴らしいことです。皆さんが示されたたゆまぬ努力と研鑽に拍手を送りたいと思います。しかしこれは一つの過程であると考えべきでしょう。学問に到達点はありません。これからの新しい研究生活の中で、これまで以上に高い目標を掲げて、それに向かって大いに努力して下さい。

東京農工大学において高度な教育を受けた皆さんは、社会においてはそれぞれ指導的立場に立つはずで、そのような皆さんにお願いがあります。研究者として、技術者として、そして社会人としての高い倫理観を失わないでください。今、世界は百年に一度といわれる深刻な経済不況の真ただ中にあります。政治的にも経済的にも極めて不透明な状況にあります。このような時であっても、上に立つ人には高い倫理観に裏打ちされた着実な努力で全体を誤り無き方向に導くことが求められます。その誠の努力こそ必ずや報われ、その先には明るい未来が待ち受けているでしょう。人の道にもとる行為には必ず報いがあります。「天網恢恢疎にして漏らさず」です。

終わりに、学位を取られた皆様には、これまでに修得された学識と技術を存分に活かして活躍されますよう祈念し、東京農工大学のさらなる発展のため、同窓会活動などを通じて、ご支援くださいますようお願い申し上げます。また、留学生の皆さんには本学で身につけた知識や技術を通して、母国の発展のために大いに活躍して下さい。さらに、皆さんの母国と日本との友好の架け橋となっていただくようお願い致しまして、ここに告辞いたします。

平成二十一年三月二十五日

東京農工大学長 小畑 秀文